

文化財調査報告書・ 栗橋町史を刊行しました

教育委員会では、『地獄田遺跡』、『栢間村郷土誌』、『栗橋町史近世資料編』の4冊を刊行しました。

『地獄田遺跡』

地獄田遺跡は、菖蒲町小林にあり、縄文時代後期から晩期にかけての遺跡です。遺跡から出土した土器や土偶などの一部は、県立博物館でも展示されています。

本書は、これらの貴重な遺物を写真・実測図などで詳しく紹介した発掘調査報告書です。

『栢間村郷土誌』

菖蒲地区の旧栢間村で明治・大正期に編さんされた『栢間村郷土誌』、『栢間村勢一班』、『栢間村水害誌』を1冊にまとめたものです。

中でも『栢間村水害誌』は、明治43年(1910)に県内を襲った大水害を克明に記録した良質の資料です。



『栗橋町郷土誌・静村郷土誌』

栗橋地区の旧栗橋町・旧静村で明治・大正期に編さんされた各郷土誌を1冊にまとめたものです。自然・自治・産業・教育・旧跡など、当時の統計データを交え詳しく記録しています。

特に『栗橋町郷土誌』は未発表の原稿を活字化したもので、本書でしか読むことはできません。

『栗橋町史近世資料編』

栗橋関所の絵図や、関所番士が書き残した御用留などの関所資料のほか、村政や事件、村人の暮らしなどを記録した村方文書を数多く収録しています。江戸時代の栗橋地区を知るのに最適な一冊です。

頒布場所 文化財保護課および郷土資料館

頒布価格 (いずれも税込み)

・『地獄田遺跡』 1200円

・『栢間村郷土誌』 900円

・『栗橋町郷土誌・静村郷土誌』 1800円

・『栗橋町史近世資料編』 4300円
問合せ 文化財保護課文化財・歴史資料係 (内線4323)

連載 久喜歴史だより (第20回)

『埼玉梨の元祖』五十嵐翁の業績を称える 梨の記念碑



久喜市は、埼玉県で屈指の梨の生産地であり、梨は本市の特産品の一つとして広く知られているところです。

しみん農園久喜内にあるこの記念碑は、「五十嵐翁報恩碑」と書かれています。埼玉県東部地域に梨栽培を伝え広めた、五十嵐八五郎の功績を称えた石碑です。この石碑は、梨栽培の歴史を知る上で貴重な資料として、市指定有形文化財となっています。

碑文によれば、八五郎は安政元年(1854)に埼玉郡三箇村(現菖蒲町三箇)の大久保嘉左衛門の二男として生まれました。明治4年(1871)剣道修行という大志を抱いて生家をたち、群馬県大島村(現前橋市)でたまま梨の栽培に関心を持ちました。その後、千葉県や大里郡三ヶ尻村(現熊谷市)を経て、計10年間梨栽培を行いました。

明治13年には大里郡武川村(現深谷市)に移り、五十嵐家に縁付き、姓を

変えました。そこで梨栽培に専念し、技術をみがき、販売を行ったところ多くの収益を得ました。この有利な業を多くの人に伝えようと、同17年からは三箇村、栢間村、江面村(いずれも現久喜市)、その他各村を回り、梨栽培の有利性と技術を伝えました。梨栽培を教わった者はいずれも結果良好で家産を増やした者は数えきれません。そこでその子弟が五十嵐翁の徳に感謝するため記念碑を建立し、永遠に残そうとしたのです。

この碑文は、明倫館第3代館長の宮内純が大正11年(1922)に書いたものです。高さ180cm、最大幅80cm、最大厚13cmを測ります。石碑は、当初江面地内にありましたが、その後久喜本地内、上早見地内へと移転を重ね、平成23年に現在地に移されました。

問合せ 文化財保護課文化財・歴史資料係 (内線4323)